

参考資料

理化学研究所について（使命と業務）

- ・時代時代の社会の要請に応えた研究開発
- ・先端的研究基盤の共用による研究社会への貢献
- ・研究の成果をシームレスに社会に還元
- ・世界に通用する人材輩出

我が国全体の科学技術の質の向上、国民生活の利便性の向上に貢献

【第二期中期計画】

重点科学技術分野における新たな研究領域を開拓する独創的・萌芽的研究

特徴

- 新たな研究領域の開拓と成熟させる機能
- 分野融合研究の推進

効果

- 重点的プロジェクトの効果的な創出
- 先端的で優れた研究優秀な人材を引きつける

社会的要請に基づく重点的プロジェクト研究

特徴

- 目標に対応した機動的・組織的な取組
- 適材を抜擢できる柔軟なシステム

効果

- 資源の集約化による研究の大幅加速
- 優れた若手研究者の輩出

研究基盤の整備と共用

特徴

- 最先端の研究に必要な研究基盤の整備
- オールジャパンの研究者への先端的研究基盤の共用

効果

- 国内唯一の大型研究施設の効率的な活用

研究成果の社会還元と人材育成

特徴

- 優れた若手にチャンス
- 産業界との融合的連携

効果

- 優れた人材の輩出
- 理研ベンチャーの創出

○上記の特徴を実現するため、常に斬新で、先駆的な改革が自発的に起こるシステムで研究開発を展開

- ・国際的な研究評価システム
- ・期間を定めた研究プロジェクトの運営
- ・高い流動性を有する任期制中心の雇用システム～多様な人材(若手、外国人、女性研究者)の受け入れが可能

理化学研究所について(運営マネジメントの特徴)

1. トップダウンによる研究所運営

研究所の経営方針として野依イニシアティブを提唱

- ・見える理研
- ・科学技術史に輝き続ける理研
- ・研究者がやる気を出せる理研
- ・世の中に役立つ理研
- ・文化に貢献する理研

研究所運営における科学的統治

- ・研究戦略会議を設置し、研究運営の改革の方向性や理研が取り組むべき重要研究領域について検討を実施(メンバーは19名(うち8名は外部の研究者及び有識者から構成))

2. 世界の優れた人材の獲得

- ・世界から優秀な研究人材を獲得(利根川進ほか)
- ・外国人研究者の割合は研究者全体の約10%
- ・実績評価に基づく年俸制の導入
- ・毎年300名以上の研究者等を社会に輩出(研究者全体の約1/6)
- ・女性研究者の働きやすい環境の整備

3. 国際水準での研究活動の実施

- ・3つの海外拠点の設置(米国2ヶ所、英国1ヶ所)
- ・海外研究機関(NIHやマックスプランク等)との共同研究の実施

4. 国内外に開かれた研究体制の構築

- ・最高水準の研究基盤の整備・共用の促進(バイオリソース、RIBF、SPring-8、XFEL、次世代スパコン等)
- ・国内外の大学院との連携大学院の構築(東大・京大他国内31大学、海外6大学と実施)

5. イノベーション創出に向けた取組

- ・産業界とのマッチングファンドによる連携課題の推進(平成21年度は7課題実施)
- ・産業界の資金を活用した「企業—理研連携センター」の設置(オリンパス、東海ゴム、トヨタ)
- ・米国バテルの研究投資会社360ip社との連携
- ・理研発ベンチャーの創出(25社)

6. 多段階での研究評価システムの導入

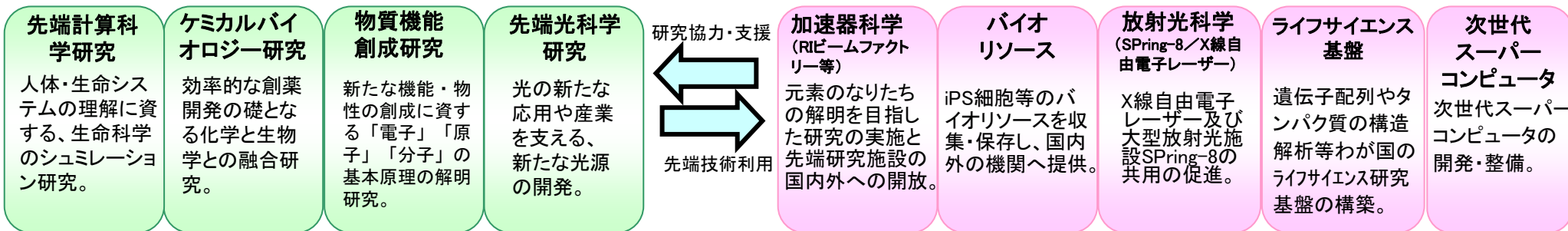
- ・機関評価として他に先駆けて委員の半分以上が外国人から構成される外部評価システムの導入
- ・各組織(各センター、研究室等毎)の運営評価の導入
- ・研究課題評価、研究者業績評価

7. 研究活動に対する支援機能の充実

- ・研究組織専属の推進・支援部門の設置
- ・研究連携や実用化のためのコーディネーターの配置

理化学研究所について（研究体制）

先端医療に応用される脳科学研究、発生・再生研究等のライフサイエンス研究や、環境対策に必要なバイオマス研究、新素材開発等、「地球規模の課題（水、エネルギー、健康、農業、生物多様性、貧困、環境）」の解決を目指した人類生存の科学を推進。

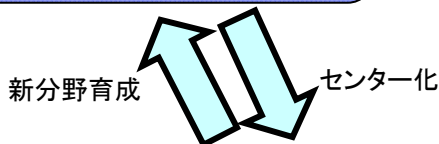


新たな研究領域を開拓し科学技術に飛躍的進歩をもたらす先端的融合研究の推進

基幹研究事業

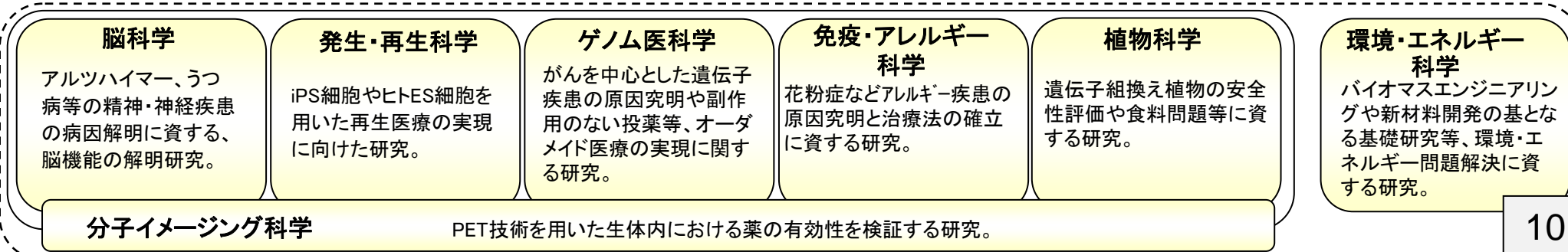
最高水準の研究基盤の整備・共用・利用研究の推進

研究基盤事業



国家的・社会的ニーズを踏まえた戦略的・重点的な研究開発の推進

戦略研究事業



理化学研究所について（国民生活を支える活動）

国民生活の向上に直結した研究成果の創出

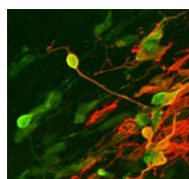
血液一滴から30分で薬の効き目を診断



・血液からDNAを抽出・精製する必要がなく、血液を採取後30分程度で遺伝子診断を行う「SmartAmp法」を開発。

・新型インフルエンザについても、検査キットを開発中。

網膜移植実現に向けた画期的成果



・光を感じる神経細胞である「視細胞」をヒトES細胞から20～30%という高効率で分化させることに、世界で初めて成功。

・網膜移植の根本的な問題を解決することができると期待。

脳波で電動車いすをリアルタイム制御



・脳波を用いて、電動車いすを125ミリ秒（1ミリ秒は1000分の1秒）で制御するシステムの開発に成功。

・高齢者や体が不自由な人を補助する装置として期待。

優秀な人材の輩出

任期制研究者等の転出先
（平成15～20年度累計）
2,028名

理研	478名
（定年制 29名、任期制 449名）	
国内大学	600名
理研以外の公的研究機関	236名
研究機関以外の公的機関	11名
病院	33名
企業・財団	305名
海外	356名
海外（学生）	9名

優れた外国人研究者の招聘

511名（53の国と地域）

うち、理研雇用研究者は243名
1. 中国、2. 韓国、3. ドイツ 4. 米国、5 フランス
（平成20年10月1日現在）

女性研究者の働きやすい環境の整備

- 常勤研究者のうち女性研究者の占める割合は16.4%（平成20年度末時点）
- 研究所内託児施設を整備

イノベーション創出に向けた取組

バトンゾーン制度の確立

- 研究機関と企業とが併走して基礎研究を実用化へ（企業との連携センター等）
- 有用な産業人材との積極登用

ベンチャー企業の育成

- 理研ベンチャーとして25社認定
- 上場を目前に控えた高収益企業も

我が国の研究を支える研究基盤の整備

大型共用施設の整備・運転

（国家基幹プロジェクト）

- 次世代スーパーコンピュータ
- 大型放射光施設（SPring-8/XFEL）

研究基盤の外部開放

- 素粒子科学を支える基盤（加速器）
- ライフサイエンスを支える基盤（バイオリソース、高速ゲノム解析等）

教育活動への貢献

連携大学院による大学院生への教育

- 東京大学、京都大学を始め31大学と協定